

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(12)-オ	交流と貢献による離島の新たな振興	施策	島しょ性を生かした技術開発の推進
			施策の小項目名	
主な取組	特殊病害虫特別防除事業			
対応する主な課題	離島の地理的特性や亜熱帯・島しょ性を生かした様々な研究開発、技術開発等を推進し、本県のみならず、アジア・太平洋地域の共通課題について離島からも積極的に発信し、離島の新たな振興へとつなげていく必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
特殊病害虫であるウリミバエのトラップ調査等による侵入警戒調査、ウリミバエ不妊虫放飼法による侵入防止防除対策を実施。イモゾウムシ及びアリモドキゾウムシの根絶防除対策、ナスミバエ等の被害軽減及びまん延防止対策を実施						
		侵入警戒調査及び侵入警戒防除の実施(ウリミバエ)				
実施主体	県	イモゾウムシ・ナスミバエ等の根絶防除・まん延防止の実施				
担当部課【連絡先】	農林水産部営農支援課	【098-866-2280】				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名 特殊病害虫特別防除事業							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	R元年度： 防除等(ウリミバエ159回、ゾウムシ類326回)	
一括交付金(ソフト)	直接実施	1,212,623	1,206,267	1,237,693	1,097,412	1,470,850	1,575,397	一括交付金(ソフト)	R2年度： 防除等(ウリミバエ159回、ゾウムシ類326回)	
予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	R元年度：	
									R2年度：	

様式1(主な取組)

活動指標名	ウリミバエ防除等回数				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	157	161	159	157	159	-	100.0%	1,470,850	順調	ウリミバエ防除は、トラップ調査26回、果実調査2回、不妊虫放飼131回(4地域)実施。ゾウムシ類は津堅島・久米島でトラップ調査・寄主除去等を326回実施。
活動指標名	ゾウムシ類防除等回数				R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	314	863	769	326	326	-	100.0%			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 ウリミバエ防除対策では、不妊虫放飼等を計画どおり実施したところ、寄主植物の移動規制を伴う緊急防除の発令はなかった。津堅島において、アリモドキゾウムシの根絶防除対策を実施したが、寄主植物から寄生が確認されたため、再度防除を実施した。
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> <li>ウリミバエ大量増殖等施設及び各放飼施設の修繕・改築について、関係課との連携を密にし、状況の変化に対して速やかに対応する。</li> <li>調査用トラップを管理している市町村との連携強化により、侵入発見精度の維持を図る。</li> <li>津堅島におけるアリモドキゾウムシの根絶に向けて、防除及び調査を継続しつつ、関係機関との調整・協議による連携強化を図る。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>ウリミバエ大量増殖等施設及び各放飼施設の修繕・改築について、予算の流用や繰越も活用して対応している。</li> <li>市町村の防除体制について確認し、改善を要する場合には指導し、侵入警戒調査の精度維持を図っている。</li> <li>地元との連携により防除を継続しており、根絶に向けて国等との協議を実施している。</li> </ul>				



## 様式1 (主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

内部要因	外部環境の変化
<ul style="list-style-type: none"><li>・ウリミバエ不妊虫の放飼を中断することなく継続することが必要。修繕及び改築により機能維持に努める。</li><li>・津堅島のアリモドキゾウムシ根絶確認のため、防除員の確実な配置が必要。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ミカンコミバエの誘殺が多数確認された影響等により放飼施設の改築が遅れている。</li><li>・本県は、ミバエ類が発生している近隣諸外国に近く、侵入リスクは非常に高い。誘殺頭数は過去最多となっており、侵入リスクは高まっている。</li><li>・アリモドキゾウムシの根絶達成に向け、調査を継続している。</li></ul>

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ウリミバエ大量増殖施設及び各放飼施設の修繕・改築について、計画の翌々年の整備を基本とするなど、状況の変化に対応できるようにする必要がある。
- ・侵入リスクの高まりに対して、発生地点確認や初動防除等の対応等、体制維持のためにも関係機関との連携強化に努める必要がある。
- ・津堅島のアリモドキゾウムシ根絶に向けて、関係機関との連携を図りつつ、調査及び防除体制の見直しを行うとともに、住民らに対する説明を徹底する必要がある。

### 4 取組の改善案 (Action)

- ・ウリミバエ大量増殖等施設及び各放飼施設の修繕・改築について、予算確保と施工状況の把握により整備の早期完了を目指す。
- ・トラップ回収状況を確認し、侵入発見精度の維持を図る。
- ・津堅島におけるアリモドキゾウムシの根絶に向けて、関係機関との連携により再侵入防止とともに調査を実施する。